



**沼田市史跡 沼田城跡**

最初に城を築いたのは沼田氏12代万亀斎頭泰で天文元年(1532)年と伝わり、蔵(倉)内城と称した。その後戦国の動乱期の中、武田氏の武將真田昌幸が入城、天正18年(1590)には昌幸嫡男の信幸が城主となり城の整備・拡張を行い慶長2年(1597)には五重の天守を建造した。天和元年(1681)に沼田の真田氏は5代で改易となり、翌年城は全て破却された。真田氏の後藩主となった本多氏をはじめ黒田・土岐氏においても、三の丸跡に藩邸を建てるにとどまり、再び沼田城に天守や櫓が建造される事は無かった。

明治になり、その藩邸も取り壊された。現在、本丸・二の丸・三の丸の多くが沼田公園となっている。



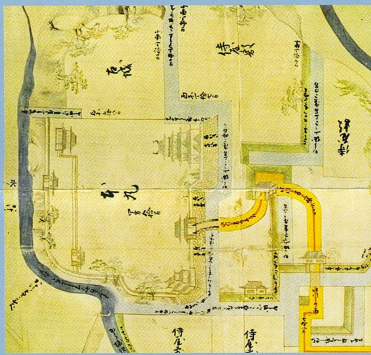
石垣発掘調査時の本丸西(乾) 繪台



同繪台上の石敷き発掘状況

**上野国 沼田城絵図 (本丸及び周辺部分)**

正保年間(1644~48年頃)に徳川幕府が全国の城主大名に提出させた「正保城絵図」のひとつで、明治維新の混乱で半数以上が散逸した。群馬県内では沼田城絵図のみが現存している。真田氏が築いた沼田城は、藩主真田氏の改易に伴い天和2年(1682)に全て破却されたことから資料が非常に少ない。本絵図は絵師により4代真田信政時代の沼田城内における建物と堀や土塁の様子や配置が丁寧に描かれ、石垣と堀や土塁の寸法なども書き込まれており、非常に貴重な資料である。幕府の指示により城の防壁において重要部分を詳しく、それ以外の本丸御殿などは描かれないという軍事に重きが置かれている。原図寸法176cm×234cm。国立公文書館内閣文庫所蔵。国重要文化財。



城絵図主要部分

**群馬県重要文化財 城鐘**

寛永11年(1634)に2代藩主真田信吉が沼田で铸造させ、三の丸の様に掛けて時報に用いられた。天和元年(1681)に真田氏が改易となり、城破却の際埋められるところを平等寺が譲り受け、その後明治31年(1898)頃から沼田町の鐘撞きとなった。「この鐘の音は領内領民を安らかにし、領主の長久を祈るもの・・・」という意味の踏道銘と平等寺の梵鐘となった由緒の補刻もあり、美術的にも優れている。身高82.4cm。中央公民館にて展示中。



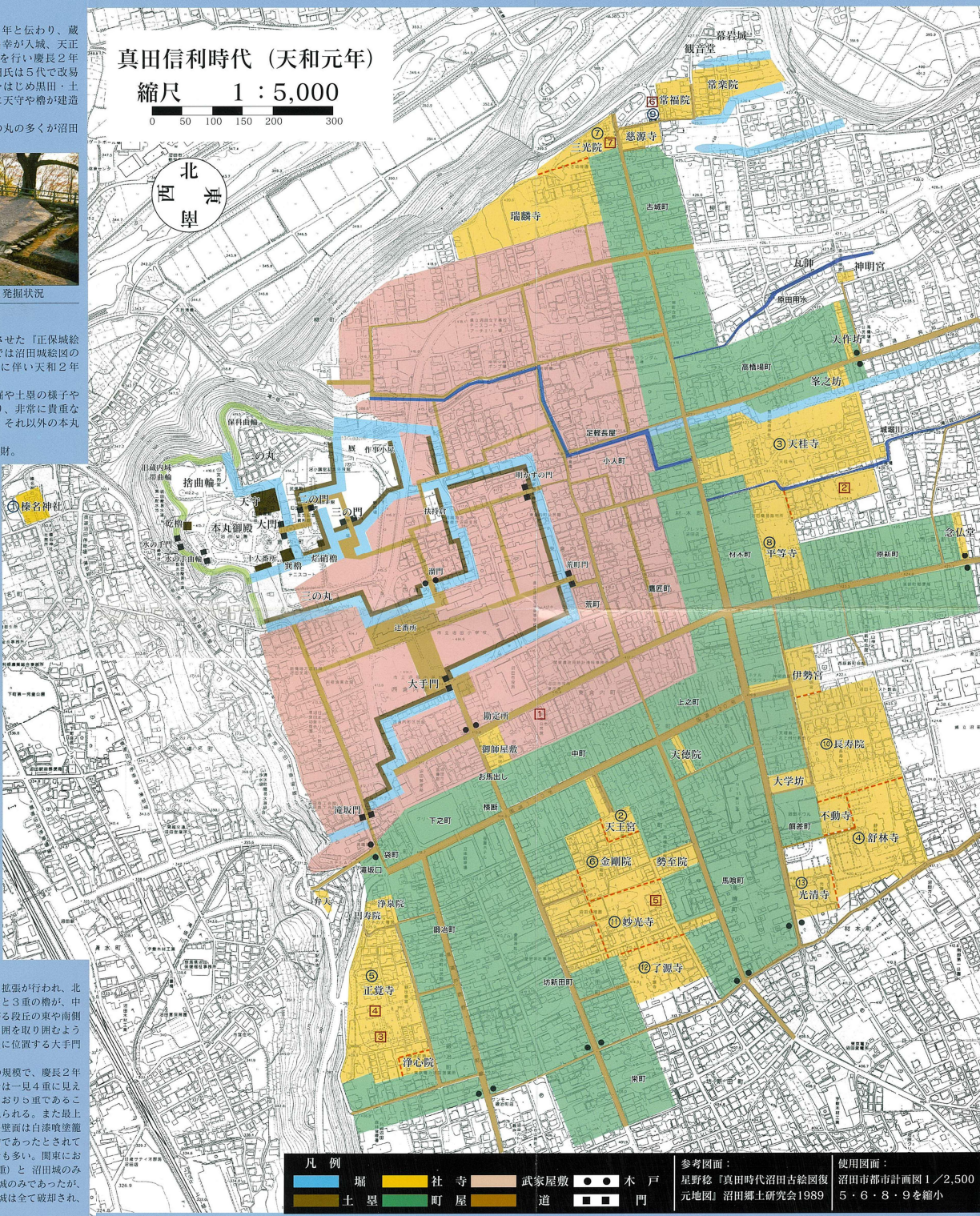
**真田氏時代の沼田城**

天正18年(1590)に初代沼田城主となった真田信幸により城の大改修と拡張が行われ、北西の段丘端部に位置する本丸内には北東の天守を始め北西と南東には2重と3重の櫓が、中央には御殿が2棟造られた。沼田城は段丘崖を背にした本丸の前面に広がる段丘の東や南側を中心に本丸を取り囲むように何重にも堀や土塁を巡らした積郭式で、周囲を取り囲むように武家屋敷、その外側に町家と寺院が配置された。沼田城の正門は南中央に位置する大手門で、そこから大手道は瀧門、三の門、二の門、大門を経て本丸に至る。

天守は「平姓沼田氏年譜略」等の文獻資料によると、9間10間の5重の規模で、慶長2年(1597)に完成。4代真田信政が正保年間に幕府に提出した沼田城絵図では一見4重に見えるが、1重目の屋根は確認できないがその上に載っている破風が描かれており4重であることは間違いない。なお、下から3重目までの屋根には多くの千鳥破風が見られる。また最上階には高欄が描かれており、回廊が巡っていたと推測されている。天守の壁面は白漆喰塗りで描かれているが、慶長初期の豊臣大名系の天守壁面は下見板張りであったとされていることから、天守が建造された当初は下見板張り以外では小田原城(3重)と沼田城のみで、明暦の大火(1657年)で江戸城天守が焼失した以降は、5重天守は沼田城のみであったが、真田氏の沼田城も天和元年(1681)に真田信利が改易となり、天守を始め城は全て破却され、それ以降天守や櫓が再建されることは無かった。

**真田信利時代 (天和元年)**

縮尺 1 : 5,000



凡 例	堀	社 寺	武家屋敷	木 戸
	土 塁	町 屋	道	門

参考図面：  
星野俊「真田時代沼田古絵図復元地図」沼田郷土研究会1989

使用図面：  
沼田市都市計画図1/2,500  
5・6・8・9を縮小

**2 沼田市重要文化財 真田河内守信吉の墓**

屋蓋に真田家の紋「六連銭」、塔身と基礎上部に「天桂院殿前河州太守 月岫淨瑠大居士 慈野朝臣真田信吉 寛永十一甲戌歲十一月念八日」と刻み、沼田藩主の墓らしい威厳と風格がある宝篋印塔である。総丈297cm。

真田信吉は初代沼田藩主信幸の嫡子で、母は大連院。元和2年(1616)に父信幸が上田に移った後二代藩主を継いだ。寛永11年(1634)に江戸屋敷で病没した。40歳。遺骸は沼田へ送られ蓮葉山で火葬、天桂寺に葬られた。



**3 沼田市重要文化財 大連院殿の墓**

塔身・基礎とも荘重な形の宝篋印塔で総丈271cm。塔身の正面に梵字による阿彌陀如来、勢至菩薩、觀世音菩薩の阿彌陀三尊が刻まれる。

大連院は徳川四天王の一人である本多忠勝の娘小松姫で、徳川家康の養女として真田信幸に正室として嫁いできた。関ヶ原の戦いで西軍についた夫の父昌幸や弟の信繁(幸村)が沼田城に入るのを拒んだという逸話がある。元和6年(1620)に江戸から草津に療養に向かう途中武蔵国鴻巣で没す。48歳。火葬・分骨にされて同所の勝願寺、沼田の正覚寺、上田の芳泉寺に葬られた。



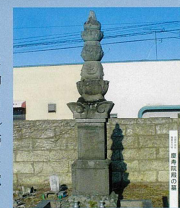
**4 群馬県重要文化財 絹本著色地蔵十王図**

地藏菩薩を中幅にして、秦広王・初江王・宋帝王・五官王・閻魔王・变成王・泰山王・平等王・都市王・五道典轉王の十王図を左右五幅に描いている。絹本彩色、寛正2年(1461)作。各幅同寸で縦97.4cm、横42.5cm。伝承によれば、真田初代沼田藩主信幸夫人大連院(徳川四天王の一人本多忠勝の娘で家康の養女)が正覚寺へ寄進したものである。祭事のみ一部公開。



**5 沼田市重要文化財 慶寿院殿の墓**

総丈311cmと比較的高さがあり、相輪と屋蓋の間に鮮やかな彫刻の蓮華台を付けた華麗な形態の宝篋印塔である。正面には相輪から塔身にかけて妙法蓮華經、基礎上部に慶寿院殿妙久・日栄大師尊位、慶と刻まれている。慶寿院は2代藩主真田信吉の御室で、5代藩主真田信利の母。寛文7年(1667)に本隆寺を改築して慶寿山妙光寺と寺名を改め、自ら開基となった。寛文9年(1669)没。



**6 沼田市重要文化財 千手観世音菩薩坐像**

像体・台座・厨子ともに漆箔の精巧で壮麗な像。頂上仏・脇手などは、はぎ付けてあり、卵形光背に巧みな技法がみられる。像高76 cm。寛文3年(1663)5代沼田藩主真田信利が、沼田城の鬼門除けとして日夜夜の常樂院法盛寺を幕府城跡に移し、この千手観音を本尊としたことから「真田観音」と呼ばれた。祭事のみ公開。



**7 群馬県重要文化財 三光院十一面観音像**

松材の寄木造りで六臂の立像。総高186.5cm。像内部の墨書銘によると文永7年(1270)に彫像に着手。彫刻師は快慶、発願者は僧慶賢。

伝承によれば応永13年(1406)年に沼田氏八代影朝が報復のため群馬郡園分の村上別守を攻めた際に、この十一面観音を持ち帰り池田の天照寺に、その後寺久保中段の熊野坊に安置された。沼田氏が蔵内(沼田)城に移る際に、熊野坊は三光院に名称が替わり場所も現在地に移された。

本院には、観音堂前に5代沼田藩主真田信利(澄)が献納した灯籠一對が、堂内の観音像が安置されていた厨子の左右には、信利夫人が寄進したといわれる白馬像がある。祭事のみ公開。

